

平成 24 年度採択 申請区分Ⅱ ③ 京都大学

「『開かれた ASEAN+6』による日本再発見—SEND を核とした国際連携人材育成」

●相手大学・機関

シンガポール国立大学(シンガポール)、チュラロンコーン大学(タイ)、ハサヌディン大学(インドネシア共和国)、フィリピン大学(フィリピン共和国)、ベトナム社会科学院(ベトナム)、プトラマレーシア大学(マレーシア)、台湾大学(台湾)、ソウル大学(大韓民国)、慶北大学(大韓民国)、北京大学(中華人民共和国)、北京師範大学(中華人民共和国)、人民大学(中華人民共和国)、復旦大学(中華人民共和国)、南京大学(中華人民共和国)、北京外国語大学(中華人民共和国)、デリー大学(インド)、トリブバン大学(ネパール)、カタール大学(カタール)、メルボルン大学(オーストラリア)、シドニー大学(オーストラリア)、ハワイ大学マノア校(アメリカ合衆国)、ハイデルベルグ大学(ドイツ)、ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学(ドイツ)、コッチ大学(トルコ)、タマサート大学(タイ)、インドネシア大学(インドネシア共和国)、ガジャマダ大学(インドネシア共和国)、ベトナム国家大学ハノイ校(ベトナム)、国立清華大学(台湾)、国立政治大学(台湾)、国立陽明大学(台湾)、延世大学(大韓民国)、西安交通大学(中華人民共和国)、浙江大学(中華人民共和国)、香港中文大学(中華人民共和国)、ネパールサンスクリット大学(ネパール)、ライデン大学(オランダ)

●主な活動内容（概要）

当初計画どおり、異文化理解交流教育(主に学部)・国際連携専門教育(主に学部3・4回生と修士)・国際連携研究指導(主に博士)の各段階における学生交流プログラムの本格展開に努めた。

①タイ、ベトナム、インドネシア等でのサマースクール形式の SEND プログラムを確立した。

②SEND 実施のための本格的準備教育として受講させる系統講義「京都で学ぶアジアと日本」(25年度 158 科目、26 年度 228 科目)を構築し、全学の国際化戦略に位置づけられた。

③質の保証を伴った大学間交流の枠組み形成の取り組み：セミ・クォーター制の導入(経済学研究科)、集中講義形式による英語講義の増設(文学研究科・経済学研究科)などの取組のほか、共同学位制度(経営管理大学院と台湾大学管理学院)、派遣先大学での単位承認(文学研究科とシンガポール国立大学、経済学研究科と人民大学・タマサート大学など)を実現した。また、タマサート大学サマースクール(経済学研究科)、チュラロンコーン大学スプリングスクール(国際交流センター)を受け入れ双方向交流を促した。

④外国人学生受入および日本人学生派遣の環境整備：英語能力の高い特定教員・特定職員による派遣・受入れ学生への指導・支援体制を充実させたほか、東南アジア地域言語講義の強化、アジア・日本研究の教材コンテンツの作成に継続して取り組んだ。

⑤大学の国際化と情報の公開、成果の普及：全学の開講科目に占める英語講義の科目数増加、留学生および海外派遣される日本人学生のための日本語・日本文化科目の拡充に貢献した。また海外大学教員による助言と事業評価体制の構築、次世代グローバルワークショップを通じた教育連携の強化に努めた。

●プログラムの現状、課題、成功事例

(単位互換、危機管理、寮、奨学金、その他プログラムをつくる上での障害等)

現状、課題

- ・文学研究科とシンガポール国立大学とで哲学分野の単位互換の協議をすすめ、27年度の着手を目標とし、学生のワークロード等を対等にできるよう条件を整備させている。経済学研究科とタマサート大学・ガジャマダ大学・人民大学等との間では、単位互換・単位相互認定を含む学生交流協定に基づいて交換留学生の受け入れを実施しており、とくにタマサート大学・人民大学とは共同学位プログラムの構築・導入を見据えた交渉を行っている。
- ・集団派遣中の事故による学生の負傷という事態が西安交通大学派遣で1回発生し、日本アイラックの緊急事故対策システムを発動した。
- ・学生を受け入れるための寮に関しては、全学的に拡大しているが、まだ十分に需要を満たすことができておらず、資金および引き続いた運営努力が必要である。
- ・急激な円安の進行、および各国の経済状況により、前年度と同額の JASSO 奨学金を受給しても、現地通貨換算額が大きく目減りし、派遣先での生活の維持が困難だと感じ始めている学生もいる。航空券価格の上昇も本事業での派遣・受入資金に響きつつある。

成功事例

- ・本事業における教育実践を含めたフィリピンへの貢献が認められ、安里和晃特定准教授がフィリピン大統領賞を受賞した。京都の学校でフィリピン人児童の学習支援を体験した学生たちをフィリピンに派遣し、フィリピン大学・フィリピン政府との協力のもと、日本渡航予定の母子に渡航前研修を行うというユニークな SEND 事業は、本学学生の専門教育・国際理解への寄与のみならず、社会実践としても意義を評価されている。
- ・系統講義「京都で学ぶアジアと日本」は全学の国際戦略に位置づけられ、京都大学全体の世界展開力の強化に大きく貢献することとなった。
- ・タマサート大学・チュラロンコーン大学等の ASEAN 地域の重要大学と、双方向の集団学生交流を本年度は実現させ、高く評価されつつある。今後も連携を強化させていくことで意見の一致をみた。経済学研究科のサマースクールにタマサート大学から受け入れた学生のうち1名については、タイに帰国後、京都大学において得た知見を現地新聞記事に掲載しており、発信力のあるプログラム提供ができた。
- ・サマースクール(北京大学受入)は、京都府の協力により円滑な産官学連携を実現した。
- ・第7回次世代グローバルワークショップ(12月6日～8日)は、本事業の連携先諸大学から学生を招き、教員等による特別講義と学生の英語研究発表を組み合わせ実施したほか、学外の保育園・有料老人ホームを見学して、日本社会を対象としつつケアやジェンダーについて学び交流する機会を各国の学生に提供、大きな成果をあげた。

●学生交流数

	平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
受 入	—	—	20	5	42	103	49	70
派 遣	—	—	16	54	110	192	83	178

(※) 予定含む